

第21回監視・影響調査専門調査会

「高齢者の自立した生活に対する支援 - 健康面での自立支援について -」

2007年7月25日(水) 15:30 - 16:00

永田町合同庁舎 第一会議室

福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座

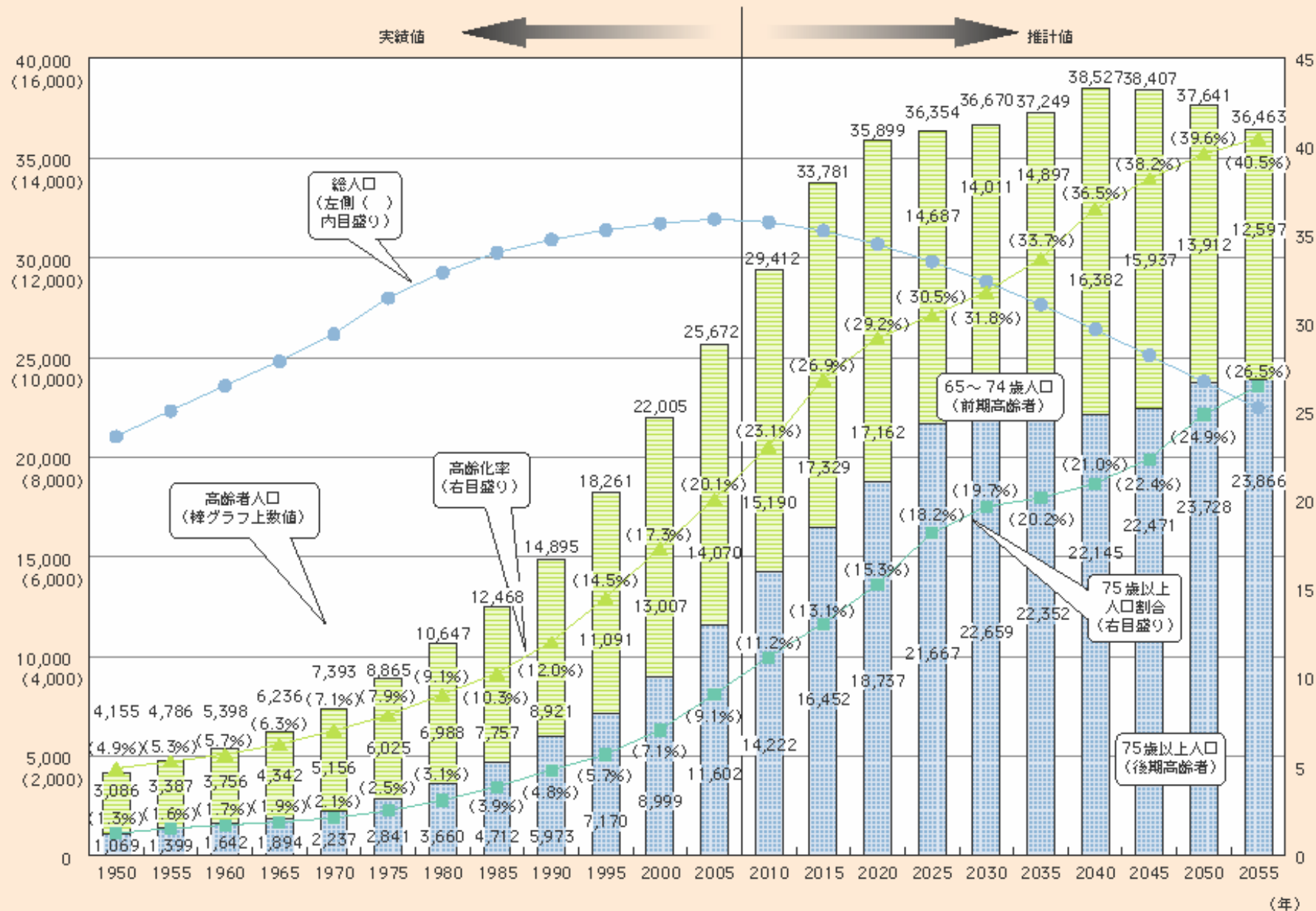
安村誠司 (yasumura@fmu.ac.jp)

内 容

- 1 . 人口学的特徴：高齡化、
健康度（健康状態）、客観的：死亡率、受療率、
ブレスロー7つの健康習慣
- 2 . 平均寿命、健康寿命
- 3 . 介護保険法の改正の背景
要介護理由、閉じこもり予防・支援
- 4 . 介護予防の考え方
自立度（生活機能）の考え方の導入
- 5 . 高齡者の能力の実態
- 6 . 高齡者における参加・役割
- 7 . まとめ

単位：千人（高齢者人口、65～74歳人口、75歳以上人口）
万人（総人口（ ）内）

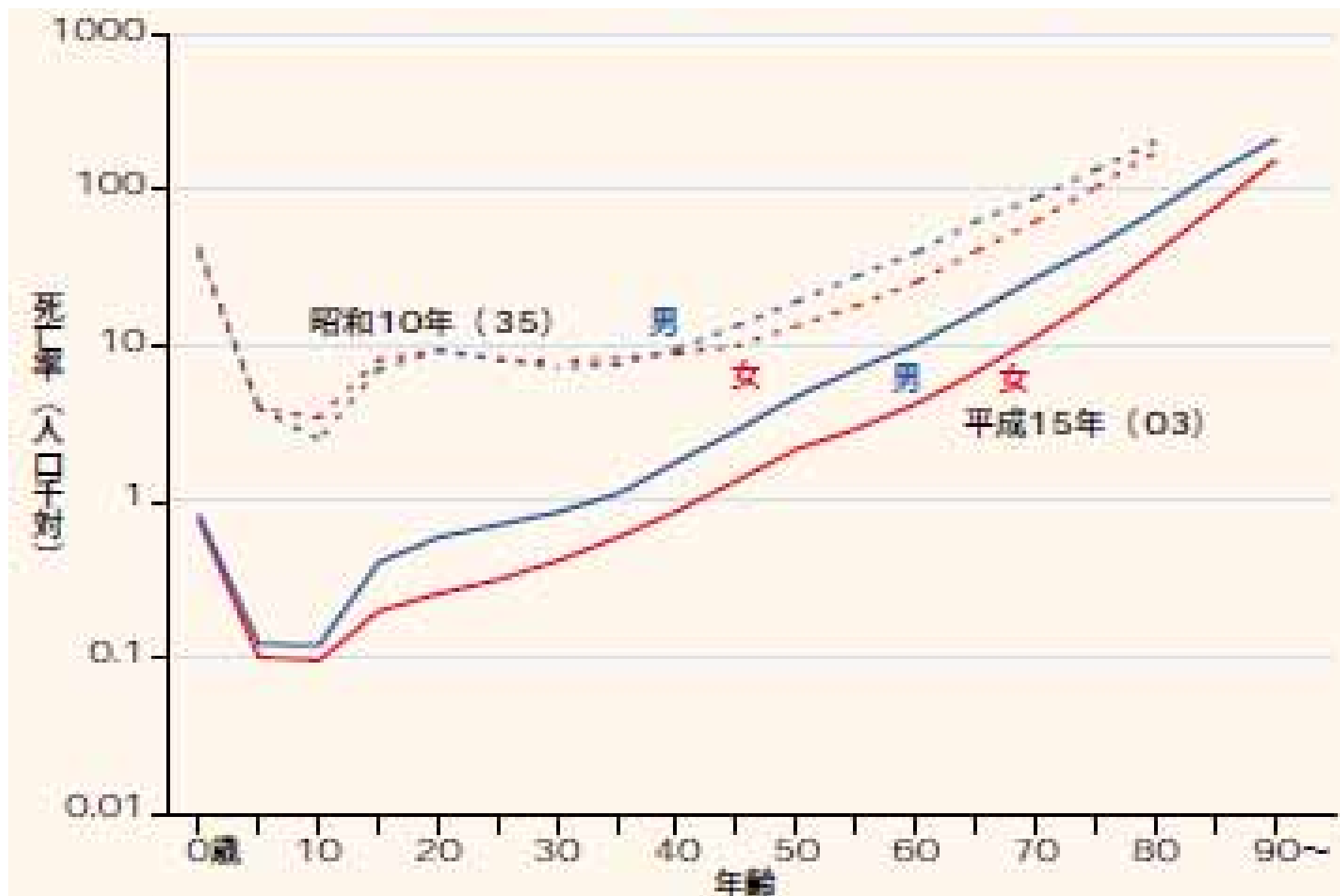
高齢化率、総人口に対する75歳以上人口の割合（％）



資料：2005年までは総務省「国勢調査」、2010年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

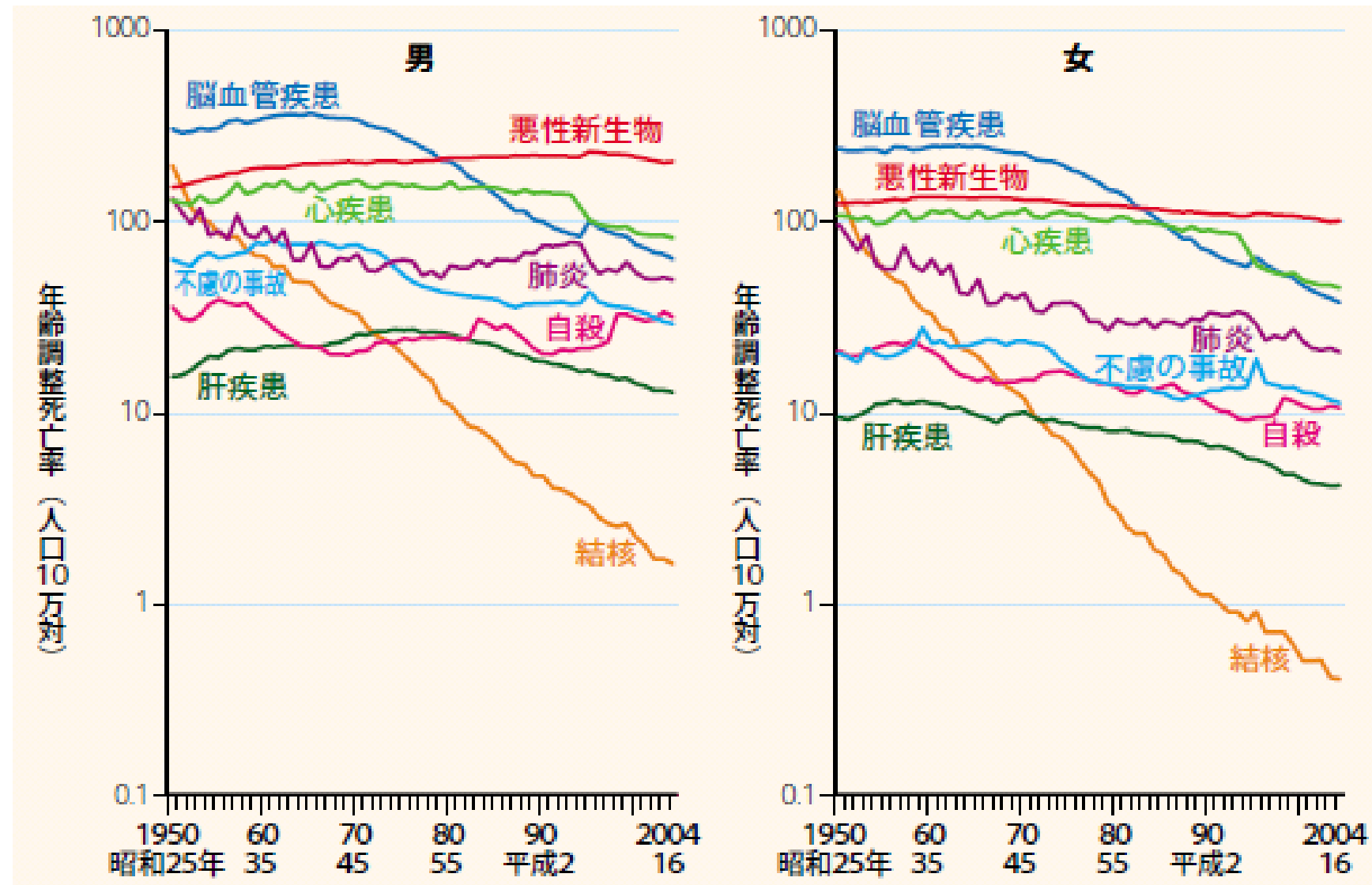
(注) 1955年の沖縄は70歳以上人口23,328人を前後の年次の70歳以上人口に占める75歳以上人口の割合を元に70～74歳と75歳以上人口に按分した。

年齢階級別死亡率(人口千対)の年次比較



片対数グラフ

性別の死因別死亡率



資料 厚生労働省「人口動態統計」

注 年齢調整死亡率の基準人口は「昭和60年モデル人口」である。縦軸は対数目盛り。

表 1－2－30 | 主な傷病別にみた受療率（人口10万対）

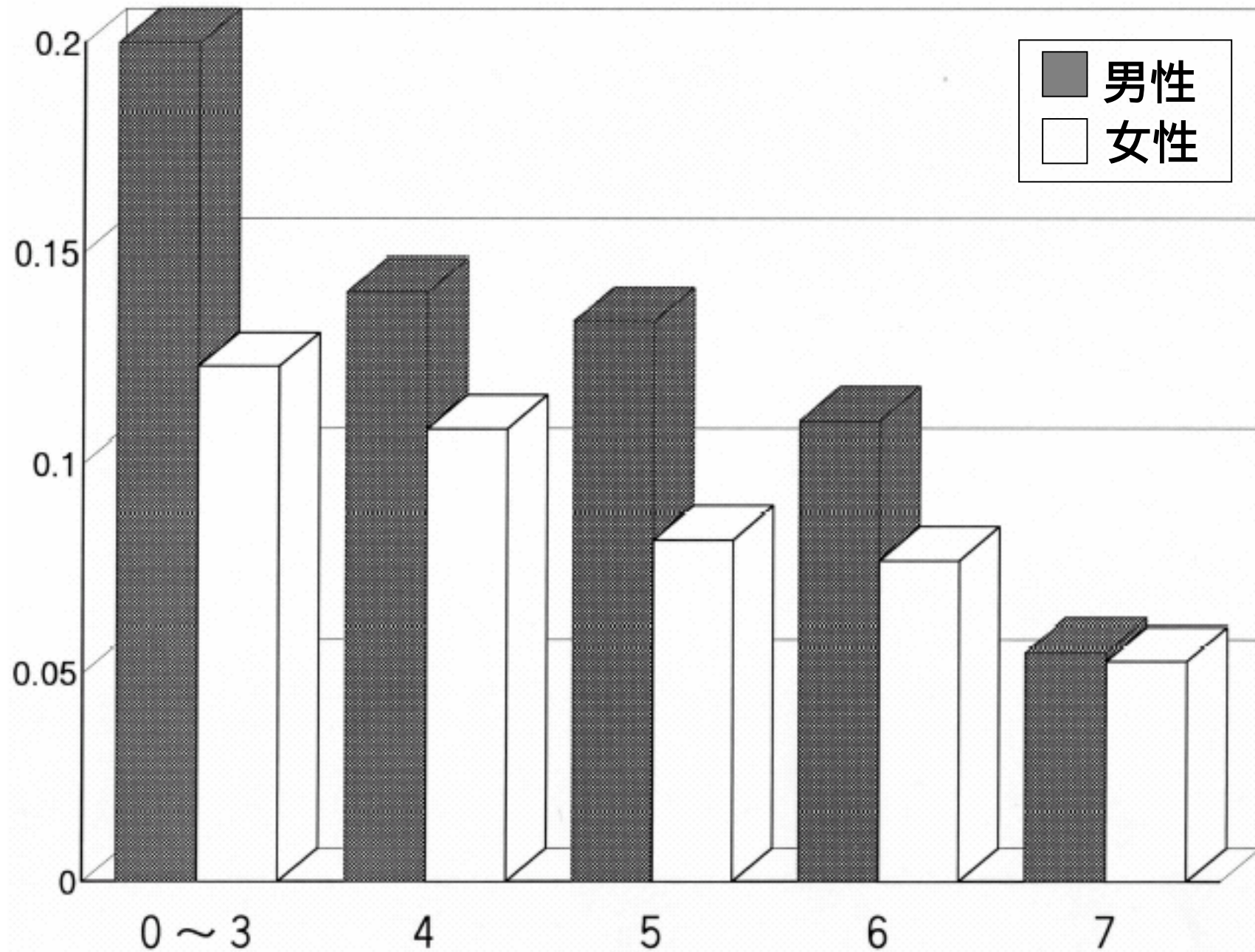
		男			女		
		65歳以上	65～74歳	75歳以上	65歳以上	65～74歳	75歳以上
入院	総 数	3,476	2,456	5,042	3,759	1,816	5,748
	悪性新生物	511	433	631	254	209	300
	高血圧性疾患	20	8	39	56	10	104
	心疾患（高血圧性のものを除く）	179	104	294	210	58	366
	脳血管疾患	697	413	1,133	847	259	1,450
外来	総 数	11,297	10,094	13,144	12,427	11,817	13,051
	悪性新生物	480	414	581	219	229	209
	高血圧性疾患	1,426	1,240	1,713	1,981	1,631	2,339
	心疾患（高血圧性のものを除く）	444	328	622	385	244	529
	脳血管疾患	424	333	563	329	218	444
	脊柱障害	1,300	1,039	1,701	1,310	1,203	1,420

資料：厚生労働省「患者調査」（平成17年）より作成

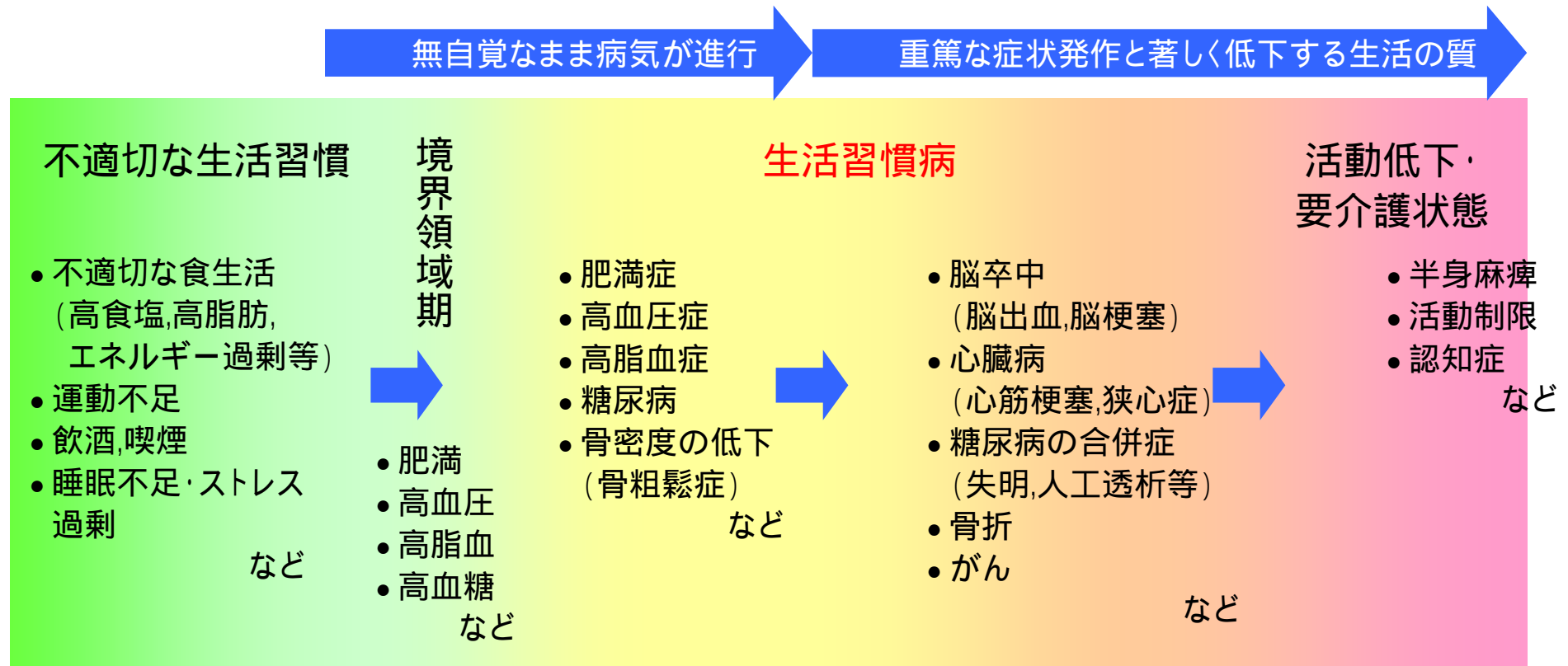
Breslow, L.の7つの健康習慣 (health habit, 1990)

1. 喫煙しない
2. 規則的な運動をする
3. 深酒をしないか、酒を飲まない
4. 規則的に7～8時間の睡眠をとる
5. 適切な体重を維持する
6. 朝食を取る
7. 間食をしない

健康習慣合計得点別の年齢標準化死亡率



生活習慣病の進行と一次予防・二次予防・三次予防の関係



【一次予防】

生活習慣の見直し、環境改善などにより、病気の発生そのものを予防

【二次予防】

健診などにより、病気を早期発見、早期治療することにより、病気が進行しないうちに治す

【三次予防】

適切な治療により、病気や障害の進行を防止、リハビリテーションも含む

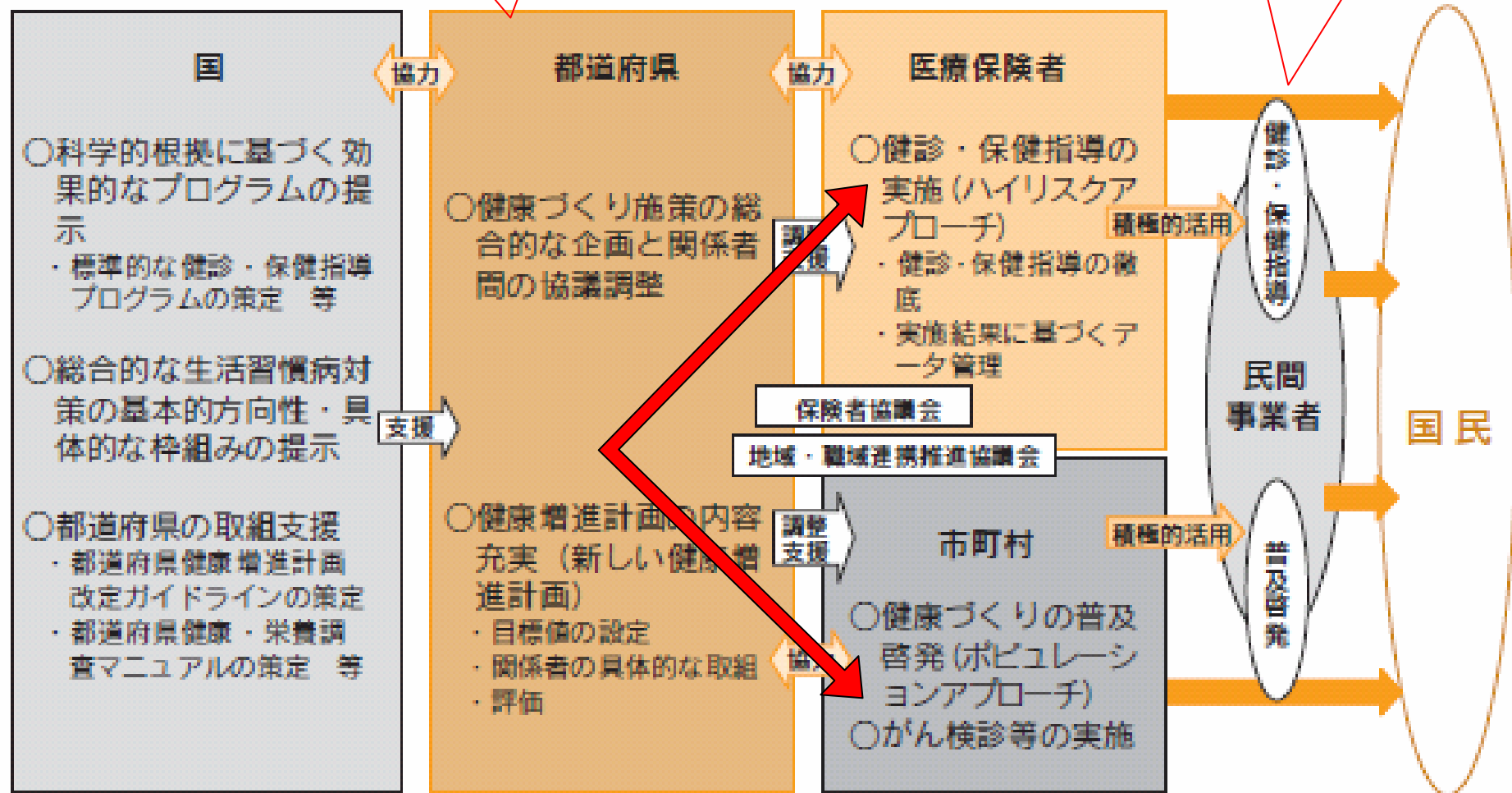
出典：生活習慣病予防研究会編 『生活習慣病のしおり2004』より作成

医療保険制度改革下での健康づくり施策の概要

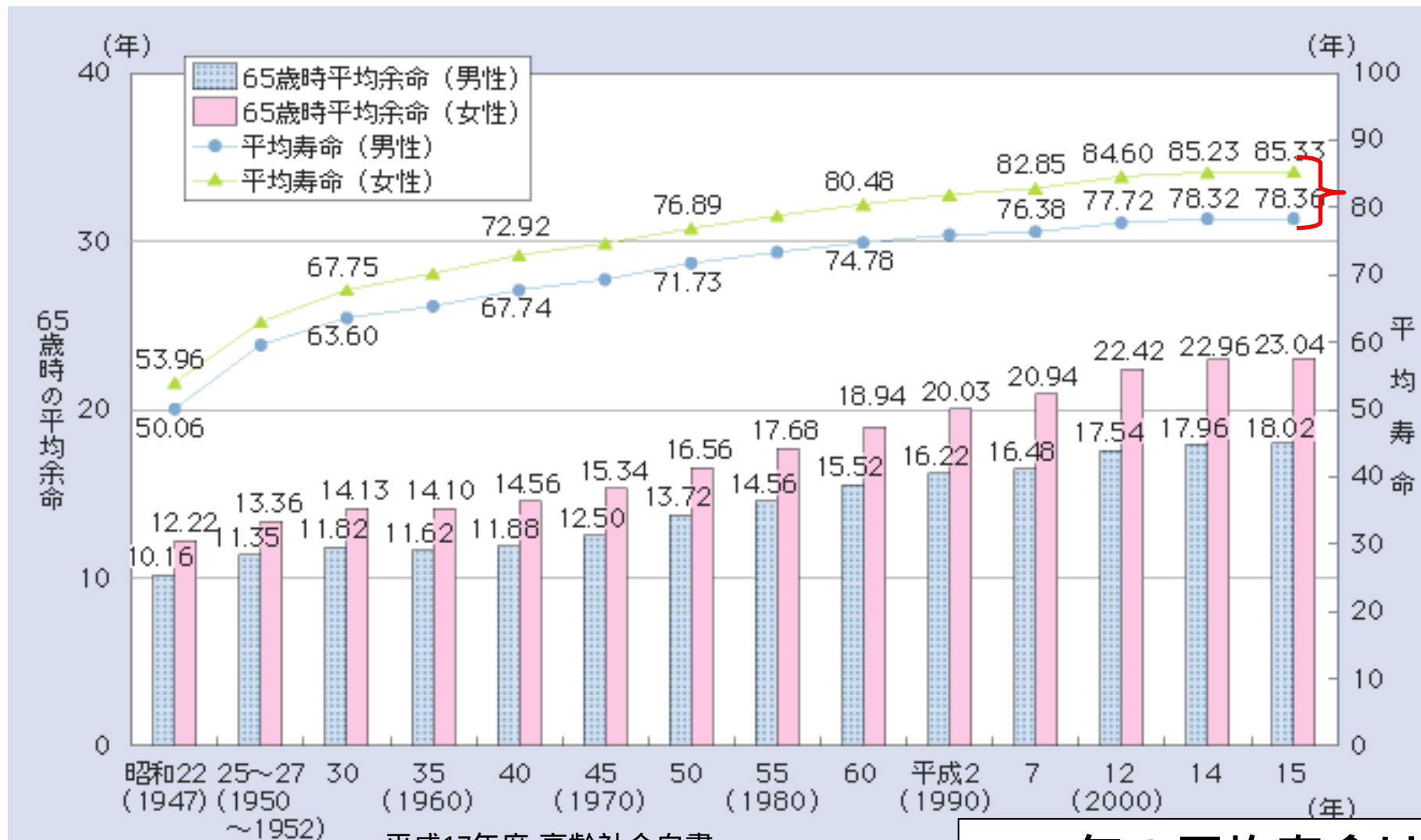
保健所・都道府県の役割

アウトソーシングの活用

生活習慣病対策の推進体制の構築



2. 平均寿命及び65歳時の平均余命の推移



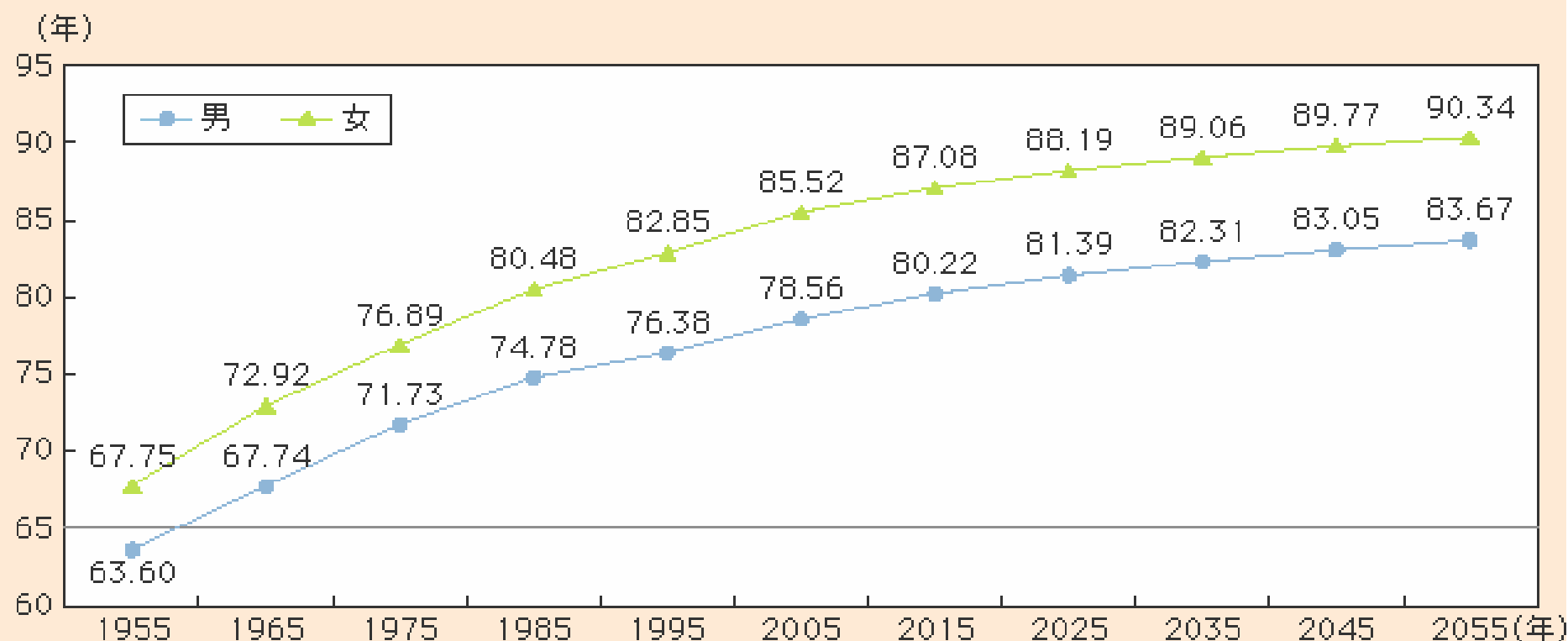
平成17年度 高齢社会白書

資料：厚生労働省「生命表」(完全生命表)、ただし、平成14、15年は「簡易生命表」

1947年の平均初婚年齢差は3.2歳

2005年の平均寿命は、
6.96歳 } 女性85.52歳
男性78.56歳

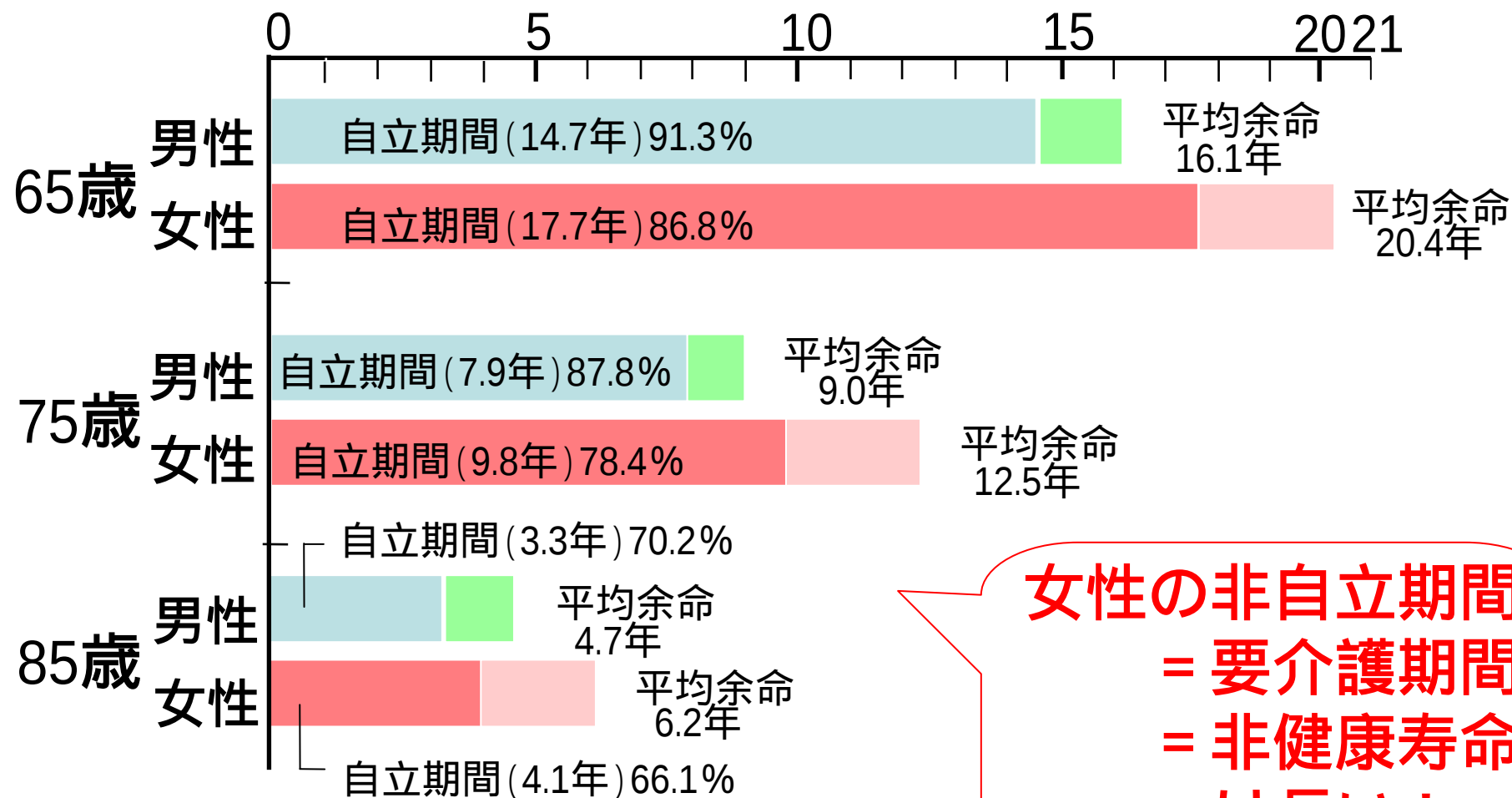
平均寿命の推移と将来推計



資料：2005年までは、厚生労働省「完全生命表」

2015年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」の死亡中位仮定による推計結果

平均余命期間と自立期間(年)



**女性の非自立期間
= 要介護期間
= 非健康寿命
は長い！**

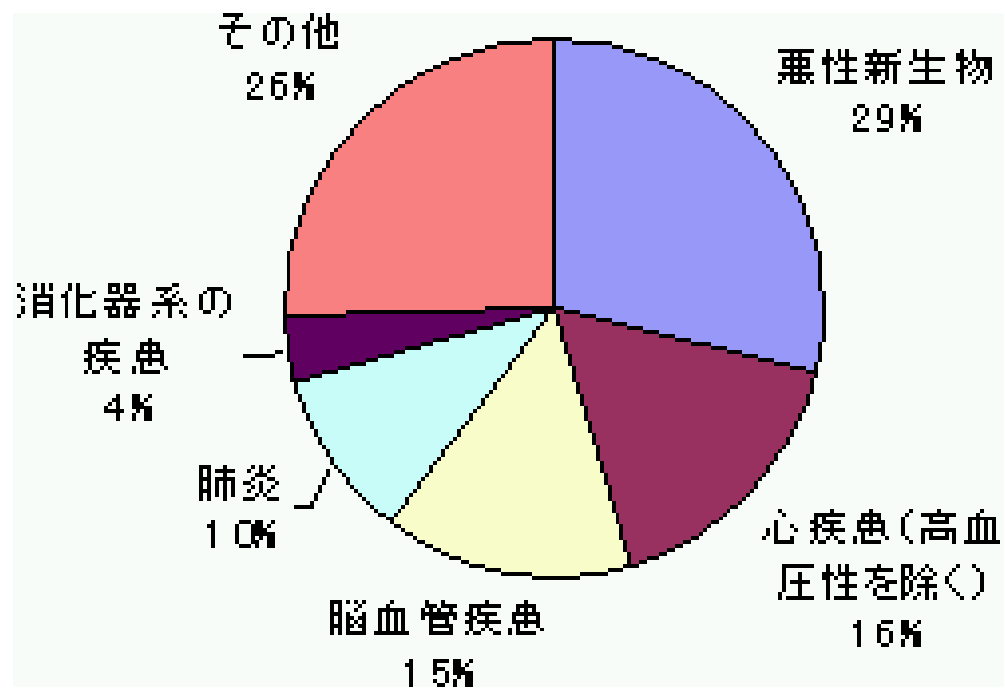
(注) 自立期間とは、要介護とならない平均期間 (= 健康寿命) を意味する。

%の数値は自立期間の割合 (平均余命のうち要介護とならない期間の割合) を示す。

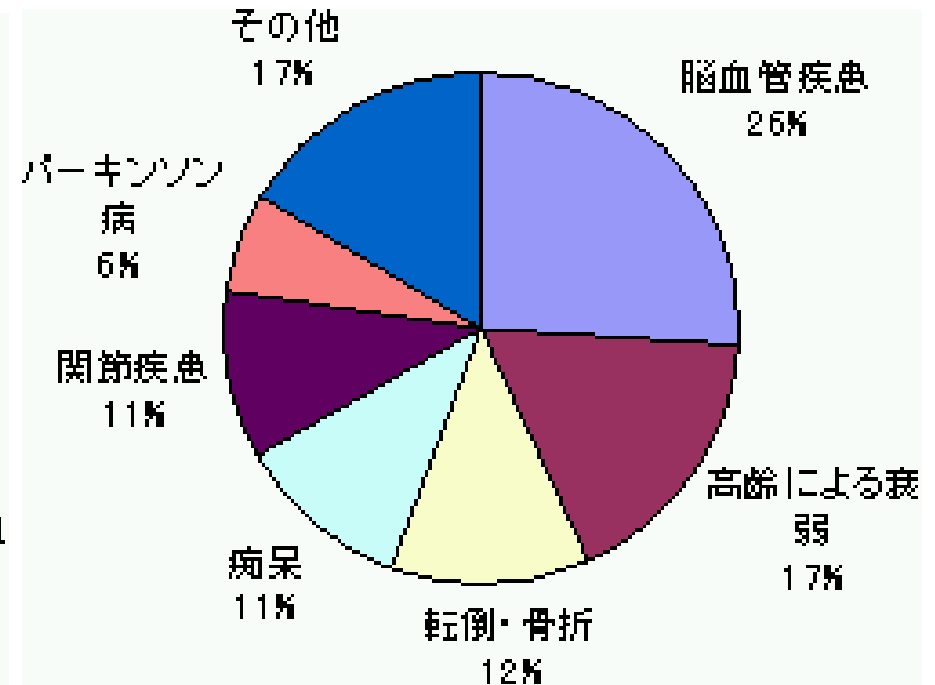
3. 介護保険法の改正の背景

65歳以上の死亡原因と要介護の原因

死亡原因

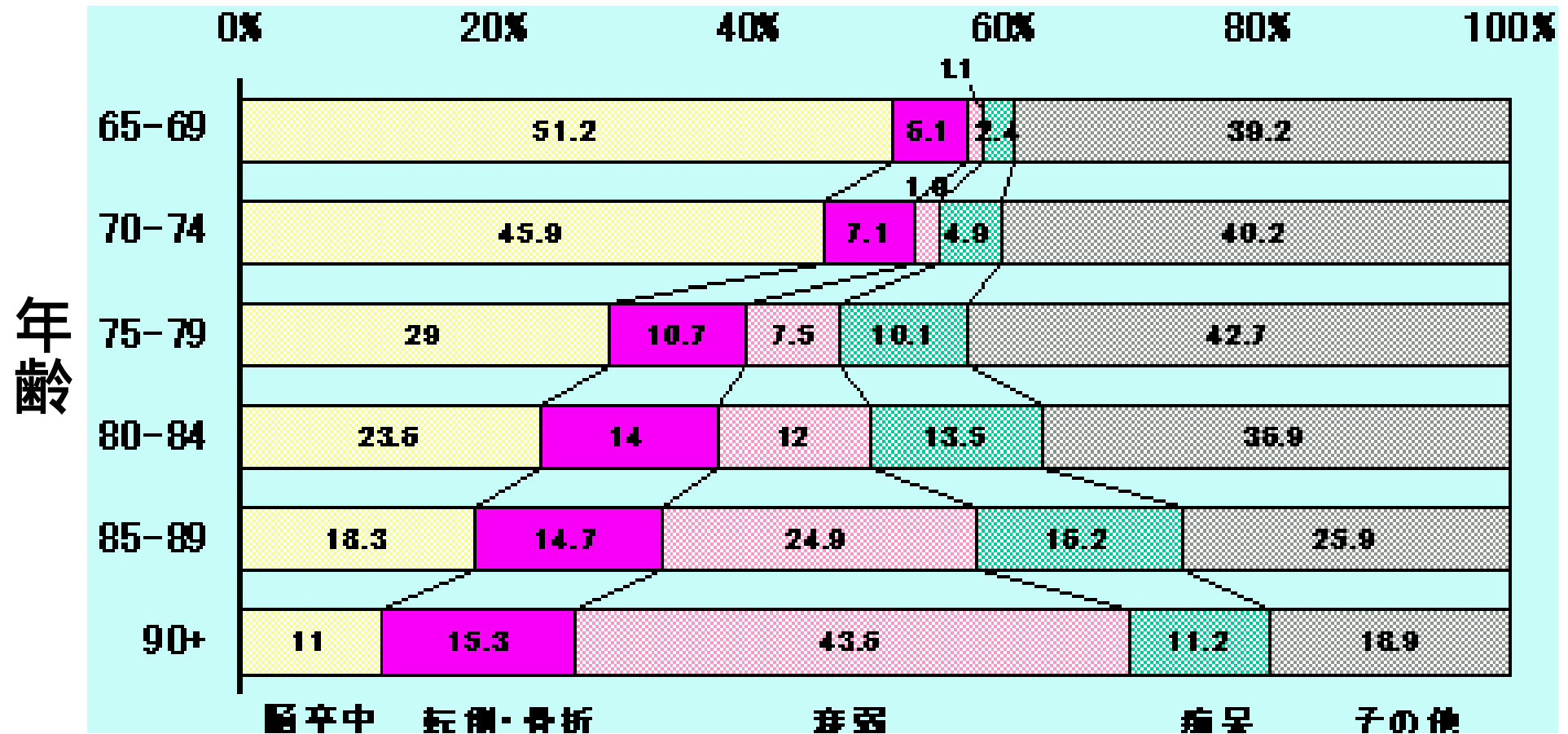


要介護の原因



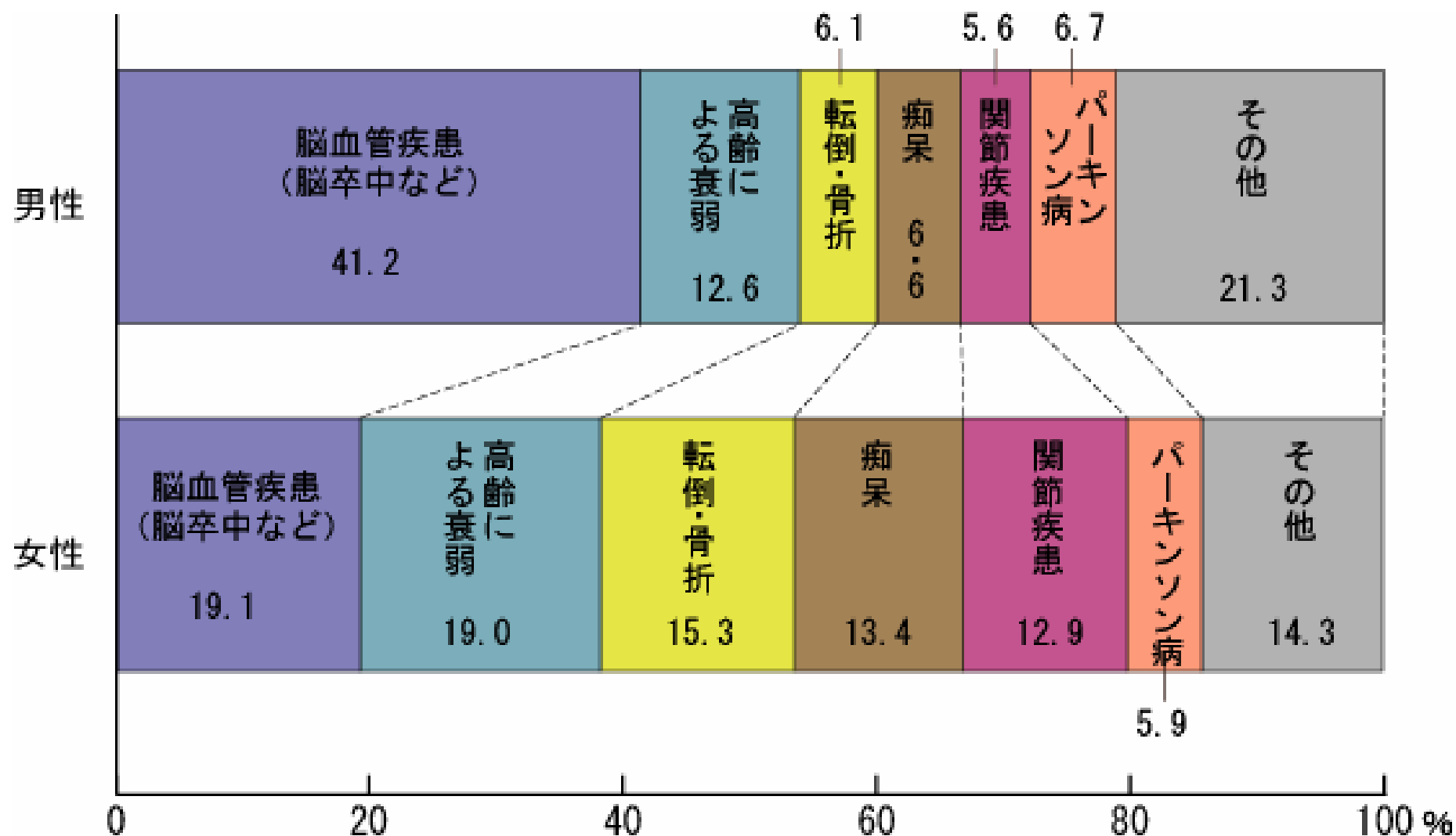
(人口動態統計及び国民生活基礎調査(2001年)
から65歳以上高齢者について作成)

介護が必要となった主な原因(年齢別)



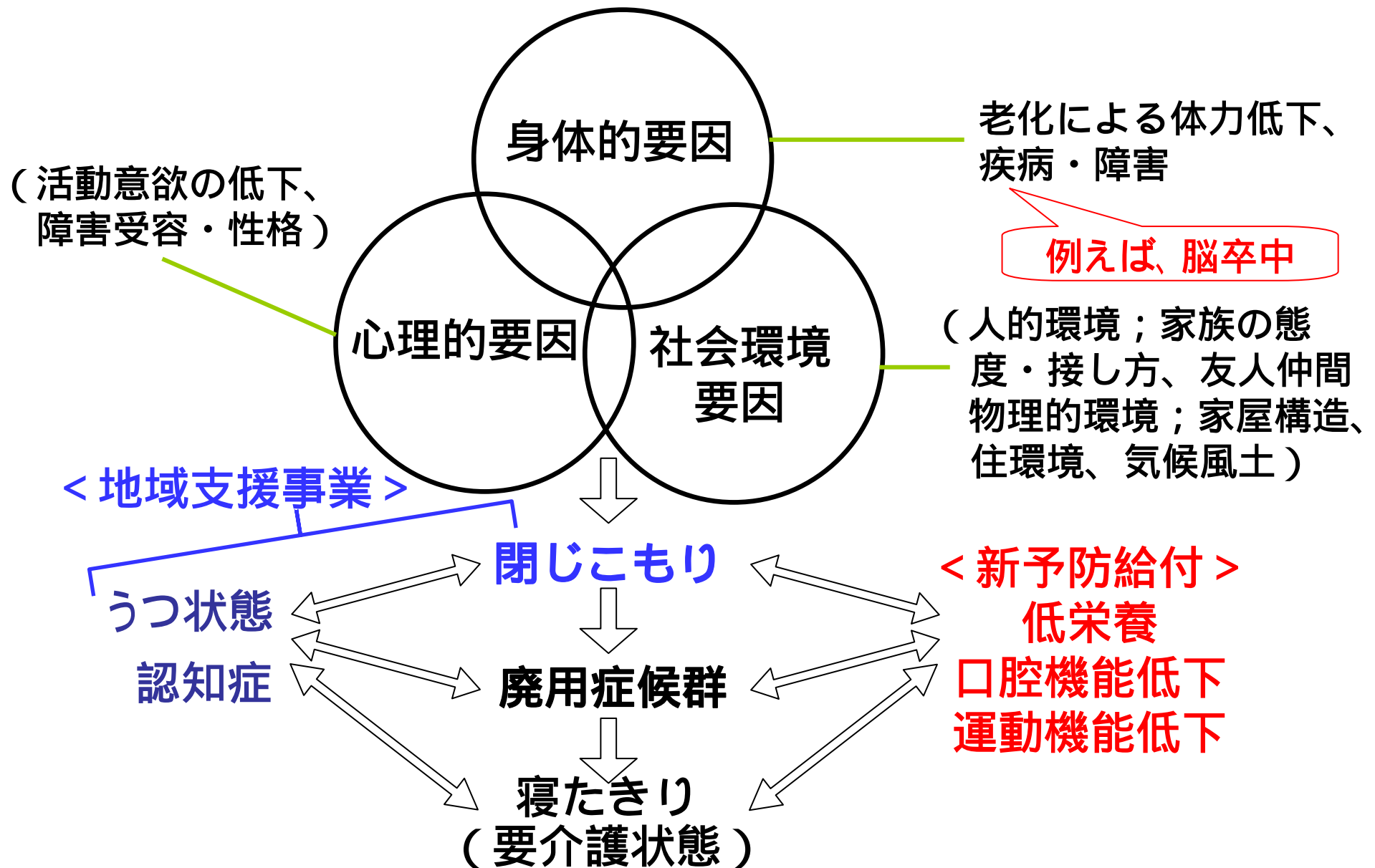
資料 厚生労働省「国民生活基礎調査」(2001年)

図7 性別による要介護の原因の違い



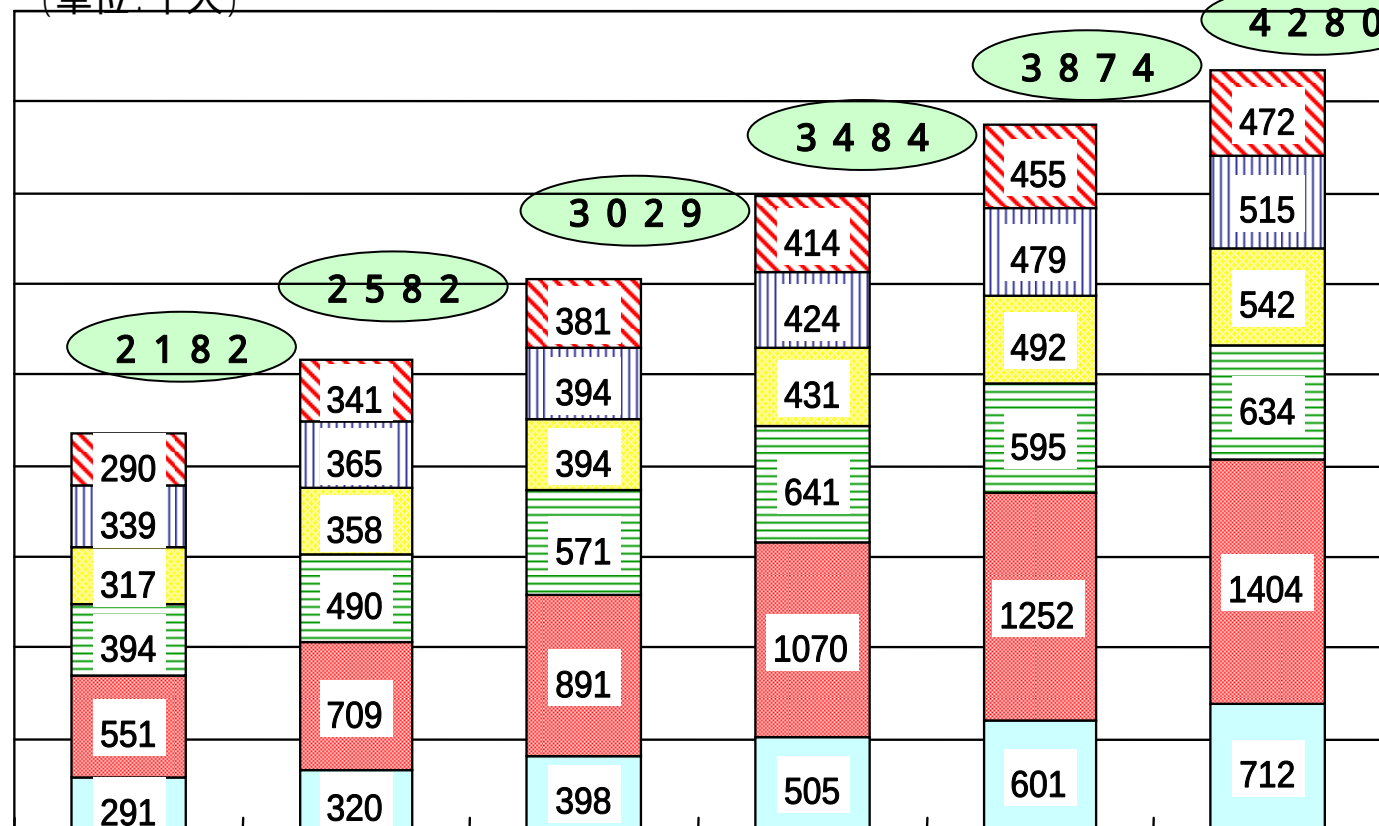
(平成13年国民生活基礎調査より)

寝たきり(要介護)の原因: 廃用症候群と閉じこもり



要介護度別認定者数の推移

(単位:千人)



2000年4月末 2001年4月末 2002年4月末 2003年4月末 2004年4月末 2005年11月末

□ 要支援 ■ 要介護1 □ 要介護2 ■ 要介護3 □ 要介護4 ■ 要介護5

要介護認定を受けた人は、
96%増 (約2倍)

2000年4月末からの増加率

計	96%
5	63%
4	52%
3	71%
2	61%
1	154%
支	145%

○ 被保険者数の推移
65歳以上の被保険者数は、5年7ヶ月で
約391万人(18%)増加

特に、要支援・要介護1の認定を受けた人は、
145~154%増 (約2.5倍)

(出典:介護保険事業状況報告)

介護保険サービスの利用状況(介護サービス受給者数)

	総 数	要支援等	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
受給者総数 (65歳以上の受給者)	3,418.9 (100.0)	473.0 (13.8)	1,099.7 (32.2)	539.1 (15.8)	477.7 (14.0)	454.4 (13.3)	375.1 (11.0)
男	950.2 (100.0)	105.8 (11.1)	290.1 (30.5)	174.4 (18.4)	153.4 (16.1)	132.3 (13.9)	94.2 (9.9)
女	2,468.7 (100.0)	367.1 (14.9)	809.6 (32.8)	364.6 (14.8)	324.4 (13.1)	322.1 (13.0)	280.9 (11.4)

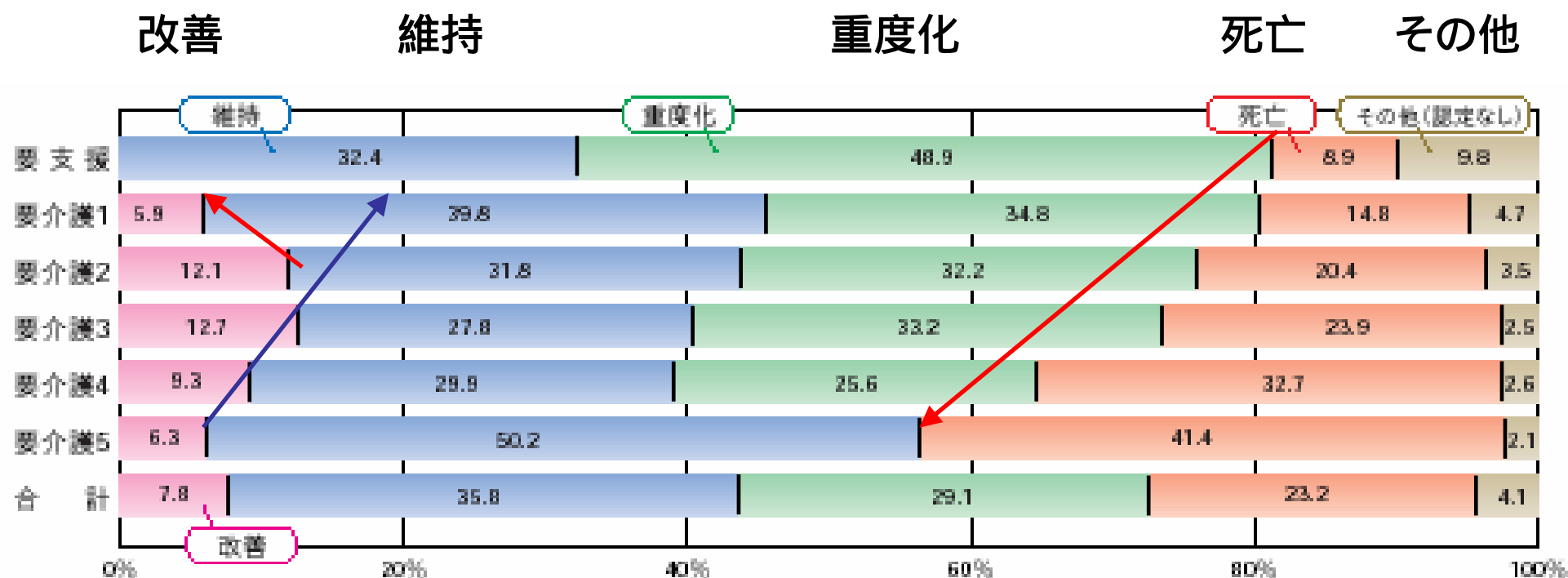
資料：厚生労働省「介護給付費実態調査月報（平成18年4月審査分）」

(単位:千人)

(注) () 内は総数に占める割合 (単位: %)

高齢者(65歳以上)人口は、
 男性 1137万人(42.4%)
 女性 1545万人(57.6%)
女性は男性の1.36倍

要介護者の2年間の状態変化



口図参照 川越雅弘主幹研究員の調査研究。松江広域、出雲市、嵯峨町の被保険者について、2000年10月と2002年10月を比較。

要支援・要介護1の高齢者の状態の改善が不十分！！

4 . 介護予防の考え方 老年期の健康指標

死亡率 Mortality

罹患率 Morbidity

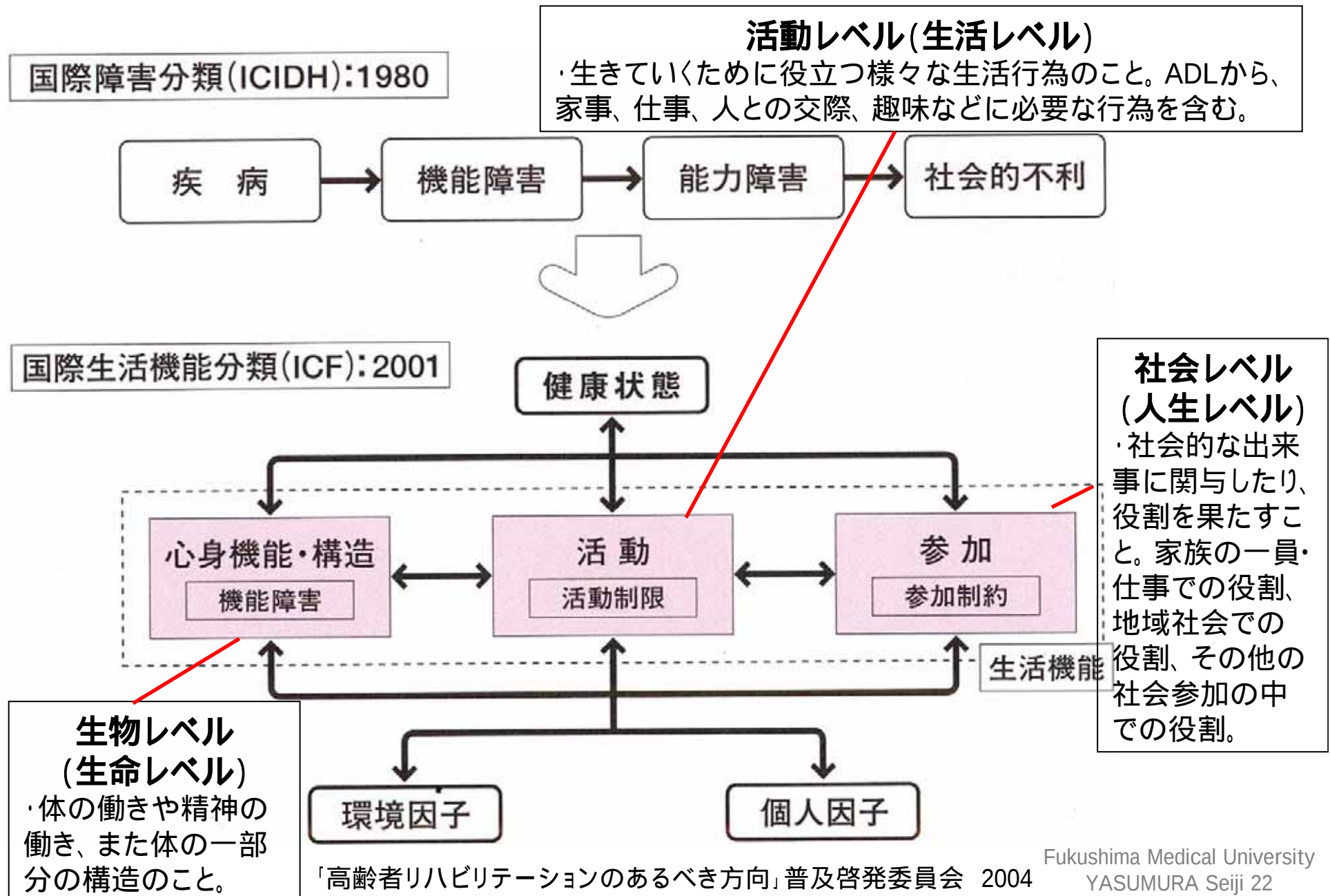
生活機能 Autonomy

(WHO. The uses of epidemiology in the study of the elderly. WHO Technical Report Series 706, Geneva, 1984)

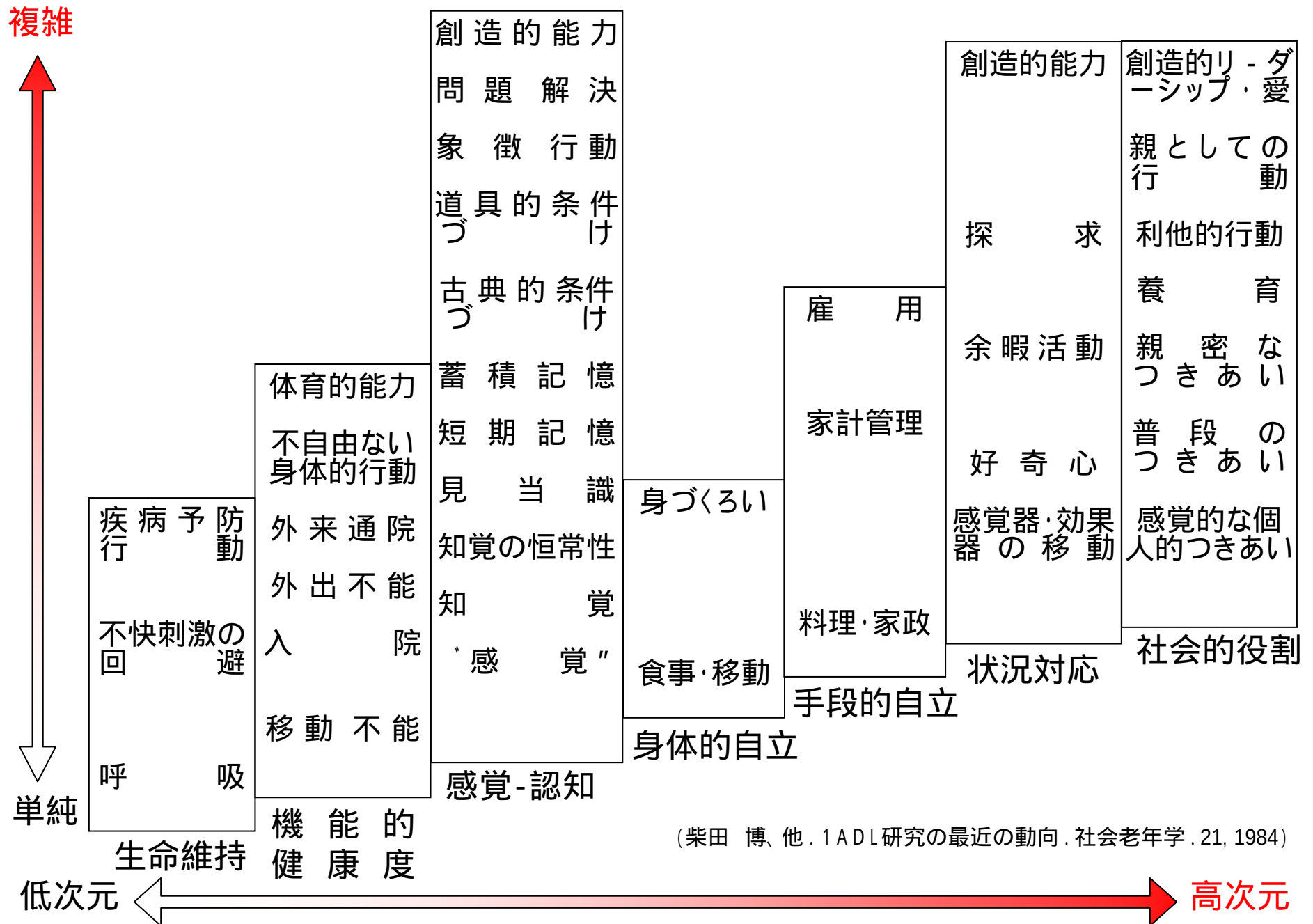
在宅高齢者のADLの分布 (東京都老人総合研究所、秋田県南外村老人健康調査、1989)

	男 (N=287)			女 (N=427)		
	自立	半介助	全介助	自立	半介助	全介助
歩行	94.8	1.4	2.8	95.3	0.7	4.0
食事	96.8	2.1	1.0	96.5	1.2	2.3
排泄	94.1	3.5	2.4	93.9	2.8	3.3
入浴	91.6	3.8	4.5	92.7	2.4	4.9
着脱衣	95.1	1.7	3.1	95.3	0.5	4.2

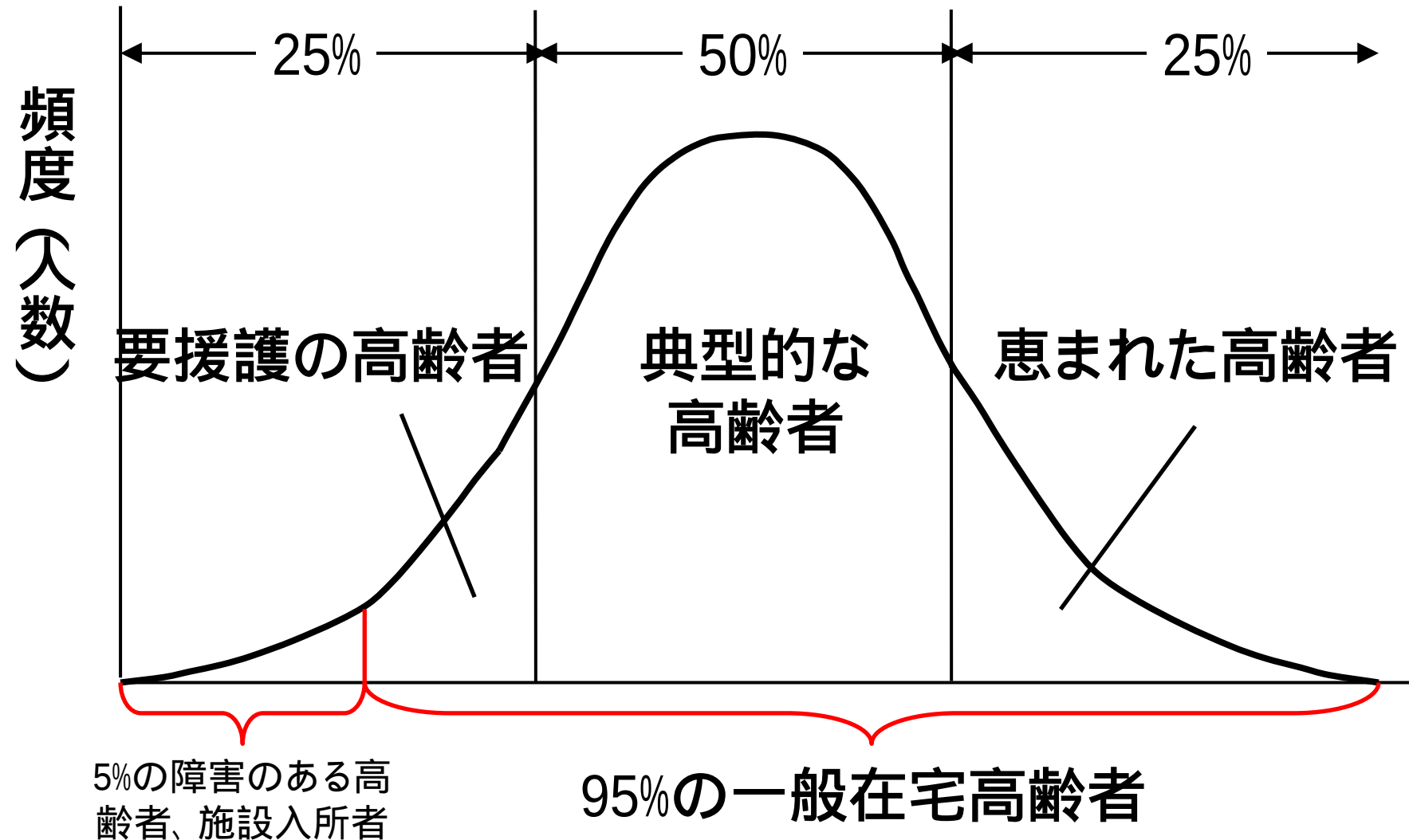
国際障害分類ICIDHから国際生活機能分類ICFへ



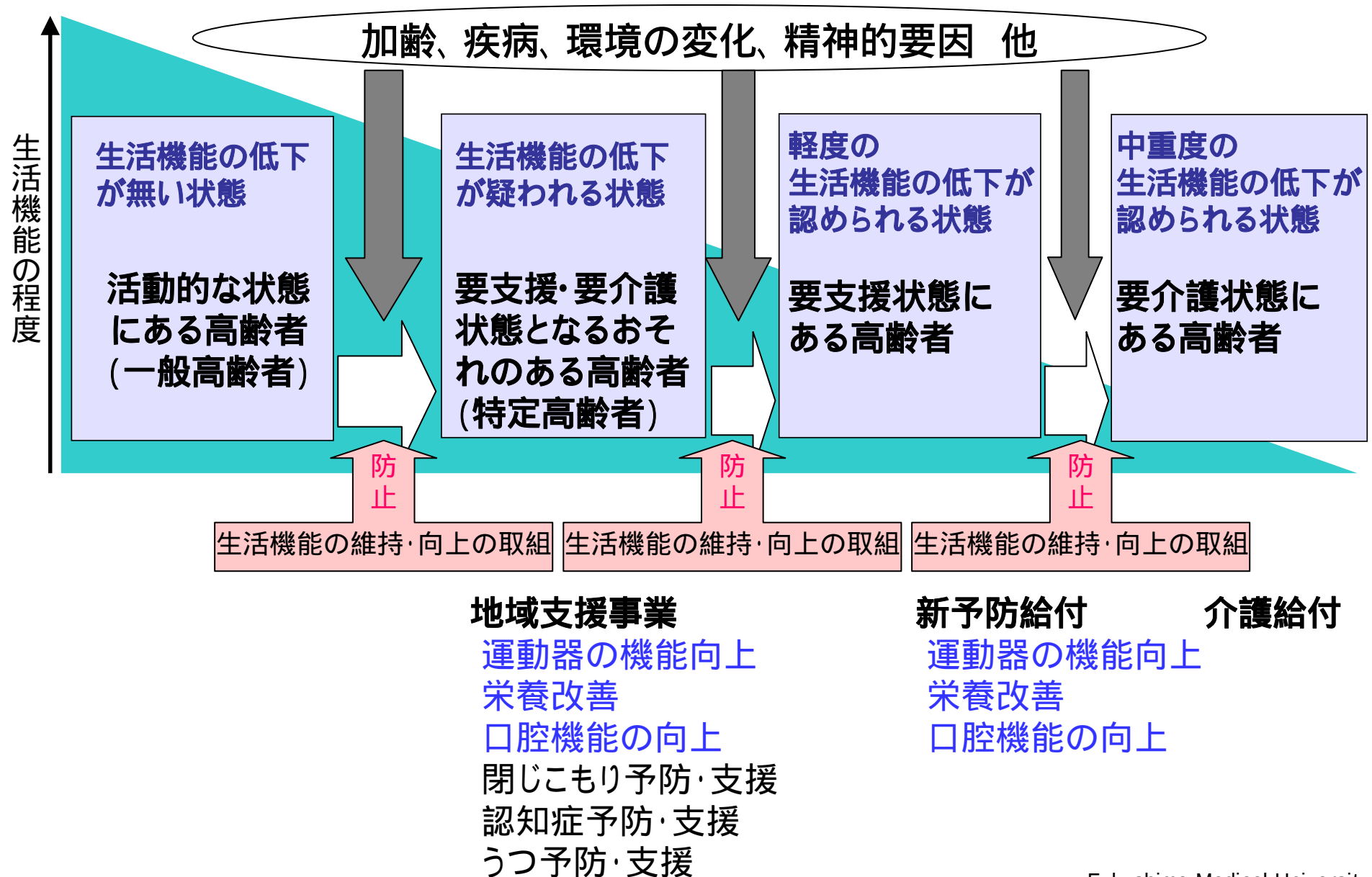
5. 高齢者における能力 (Lawton, 1972)



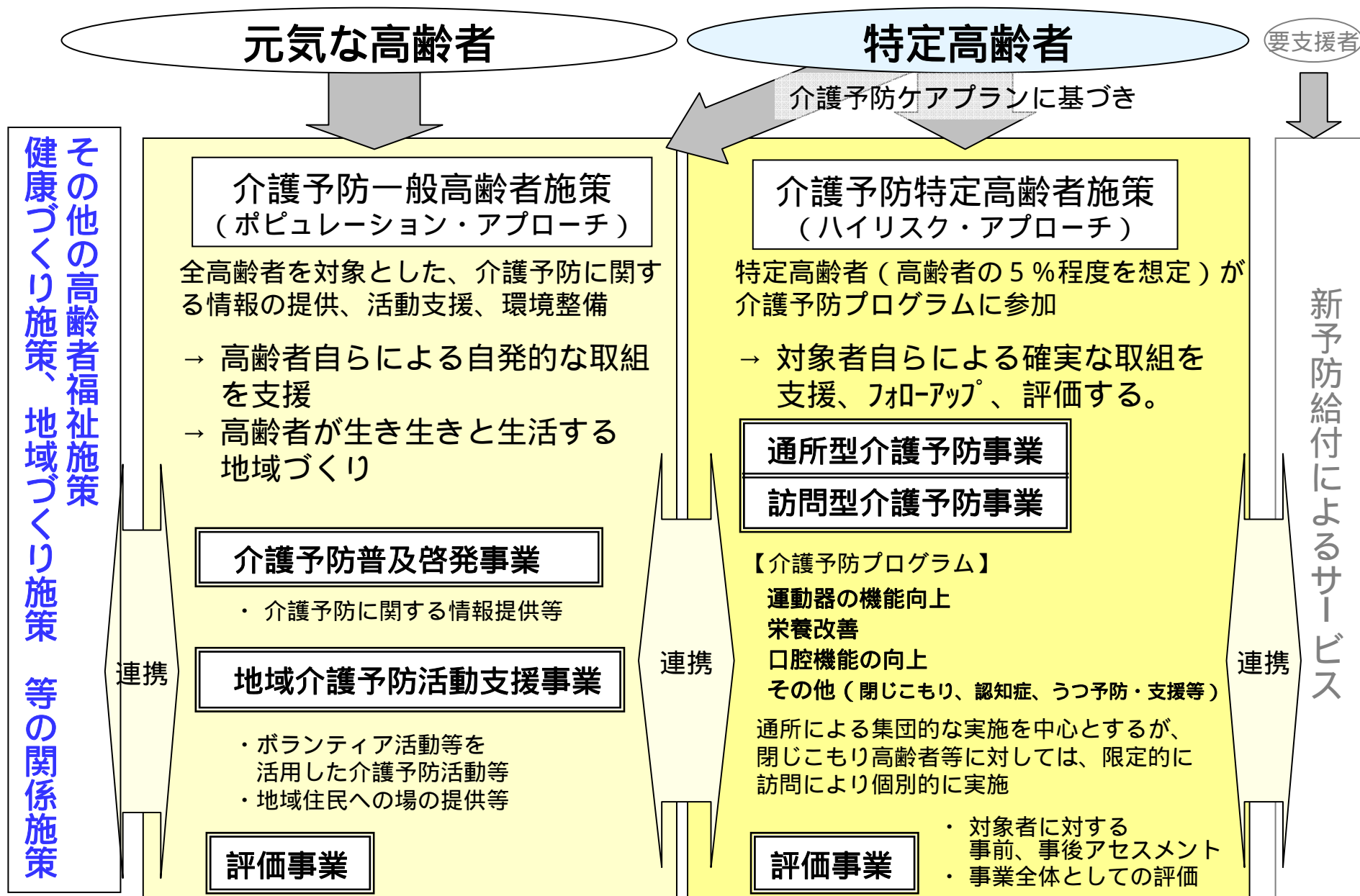
高齢者の健康度の分布 (Schrock M.M. 1980)

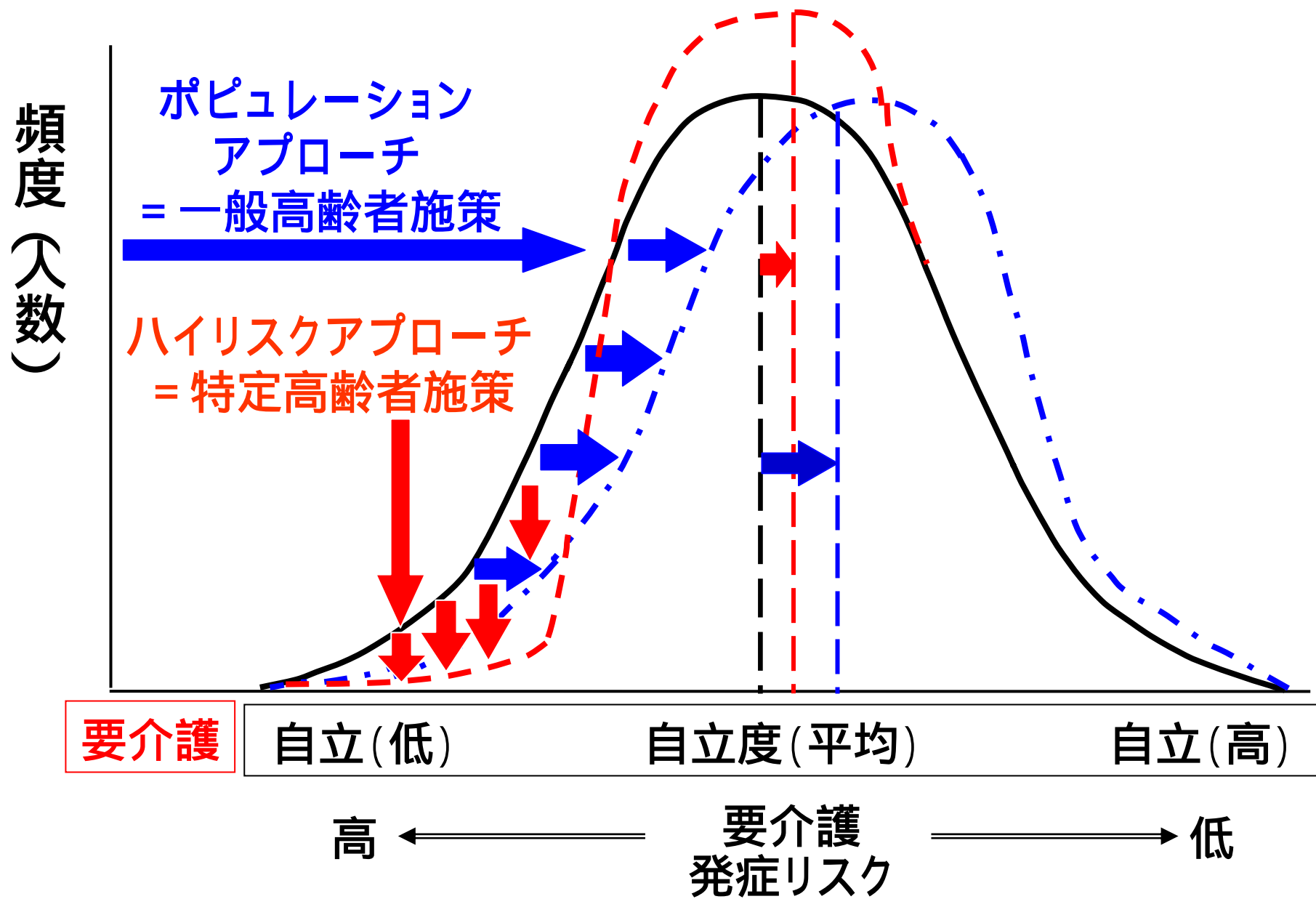


介護予防の考え方 - 生活機能の程度と高齢者の状態 -



【 介護予防事業の流れ 】





ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ

(厚生労働省 健康日本21報告書 2000.2 改変)

6. 高齢者における参加：役割の性別比較

		男性			女性		p値
		人	%		人	%	
収入の伴う仕事	あり なし	n=156		>	n=212		0.004
		43	27.6		32	15.1	
		113	72.4		180	84.9	
シルバー人材センター・ 高齢者事業団の仕事の経験	やったことがある やったことがない・分からない	n=153			n=214		0.785
		5	3.3		9	4.2	
		148	96.7		205	95.8	
家の中での役割	あり なし	n=159		<	n=250		0.006
		132	83.0		231	92.4	
		27	17.0		19	7.6	
地域の団体・組織・会 との関わり	入っている 入ってない	n=136			n=196		0.616
		102	75.0		142	72.4	
		34	25.0		54	27.6	
ボランティア活動	行っている 行っていない	n=126			n=188		0.641
		73	57.9		114	60.6	
		53	42.1		74	39.4	
役割全体の有無 ^{注1)}	あり なし	n=178			n=280		0.325
		158	88.8		257	91.8	
		20	11.2		23	8.2	

Fisherの直接法

注1) 役割全体は、5つの役割項目のうちいずれかを行っている者を「あり」、何も行っていない者を「なし」に分類

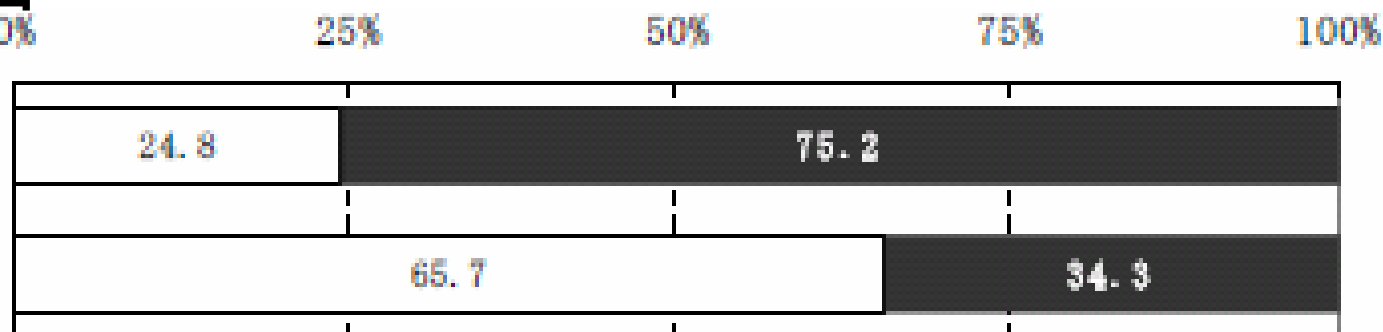
家の中で行っている役割 - 性別 -

	男性 n=159			女性 n=250		p値
	人	%		人	%	
食事の支度	25	15.7	<	188	75.2	0.000
洗濯	24	15.1	<	205	82.0	0.000
掃除	38	23.9	<	190	76.0	0.000
家計や財産管理	42	26.4		54	21.6	0.283
孫の世話や保育	25	15.7		39	15.6	1.000
親や配偶者の介護	7	4.4		14	5.6	0.653
ペット・家畜の世話	25	15.7		40	16.0	1.000
神棚・仏壇の管理	53	33.3	<	135	54.0	0.000
庭・花壇・菜園の管理	71	44.7		125	50.0	0.311
ごみ捨て・ごみ処理	58	36.5	<	118	47.2	0.040
留守番・電話番	42	26.4	<	118	47.2	0.000
家事の手伝い	50	31.4		78	31.2	1.000
大工仕事や家の修繕	33	20.8	>	2	0.8	0.000
漬物・乾物・味噌作り等	7	4.4	<	111	44.4	0.000
その他	6	3.8		4	1.6	0.197

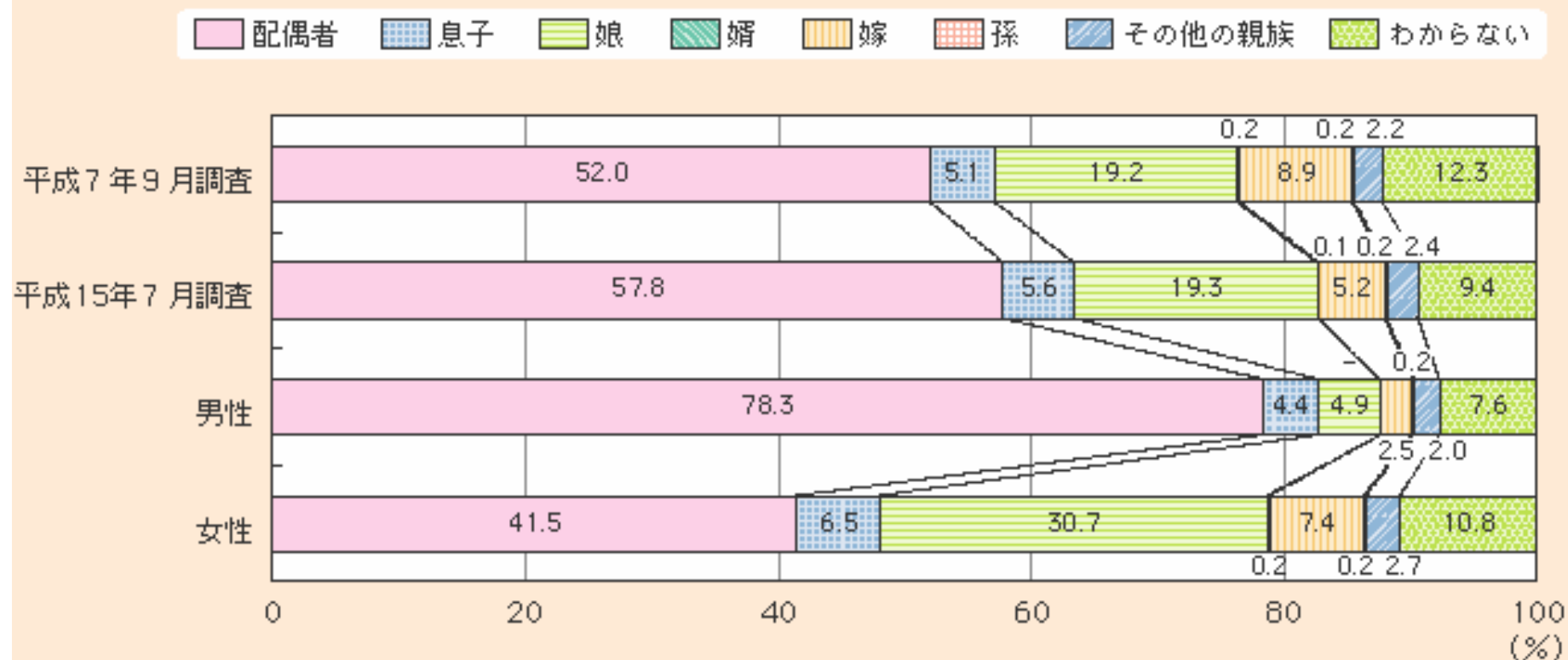
介護役割担当 - 性別 -

男性 (N=210)

女性 (N=659)



□ 主たる介護者である ■ 主たる介護者でない



資料：内閣府「高齢者介護に関する世論調査」(平成15年7月)より作成

(注1)「自宅で介護されたとしたら、どのような形の介護をされたいか」という質問に、「家族だけに介護されたい」、「家族の介護を中心とし、ホームヘルパーなど外部の者も利用したい」、「ホームヘルパーなど外部の者の介護を中心とし、あわせて家族による介護を受けたい」と答えた者を対象として、「その場合、家族の中では、誰に身の回りの世話を頼むか」について更に質問した結果を再集計している。

(注2)「-」は回答者がいないことを示す。

入っている地域の団体・組織・会 - 性別 -

		男性			女性		p値
		人	%		人	%	
町内会・自治会	入っている	44	36.4	>	47	25.4	0.055
	入っていない	77	63.6		138	74.6	
老人会・高齢者団体	入っている	51	41.1	<	87	46.8	0.352
	入っていない	73	58.9		99	53.2	
婦人会・女性団体	入っている	0	0.0	<	12	6.5	0.004
	入っていない	113	100.0		172	93.5	
民生委員・福祉関係組織	入っている	5	4.3		5	2.8	0.520
	入っていない	111	95.7		176	97.2	
保健等の推進組織	入っている	1	0.9		2	1.1	1.000
	入っていない	115	99.1		180	98.9	
スポーツ関係指導者団体	入っている	8	7.0		6	3.4	0.171
	入っていない	107	93		173	96.6	
趣味・レクリエーション関係の会・サークル	入っている	12	10.4		30	16.5	0.173
	入っていない	103	89.6		152	83.5	
地域の祭りや文化に関する組織	入っている	14	12.2		24	13.1	0.860
	入っていない	101	87.8		159	86.9	
農協・漁協・森林組合	入っている	18	15.7		17	9.4	0.139
	入っていない	97	84.3		164	90.6	
商工会・法人会等の商工団体	入っている	7	6.1		5	2.8	0.225
	入っていない	107	93.9		176	97.2	
宗教団体・寺の檀家組織	入っている	25	21.2	>	16	8.8	0.003
	入っていない	93	78.8		165	91.2	
政治関連団体・後援会	入っている	6	5.2	>	2	1.1	0.060
	入っていない	109	94.8		178	98.9	
戦友会・遺族会	入っている	6	5.1		13	7.1	0.629
	入っていない	111	94.9		169	92.9	
退職者団体・会	入っている	8	6.8		8	4.4	0.433
	入っていない	109	93.2		173	95.6	
ボランティア関係団体	入っている	6	5.1		6	3.3	0.548
	入っていない	111	94.9		176	96.7	
その他の団体	入っている	7	5.7		4	2.2	0.120
	入っていない	115	94.3		182	97.8	

(安村誠司・平成16年
厚生労働省科学研究
費補助金 長寿科学総
合研究事業(主任研究
者 芳賀 博)

現在、最近行ったボランティア活動 - 性別 -

	男性 n=126			女性 n=188		p値
	人	%		人	%	
美化・環境整備の活動	38	30.2		66	35.1	0.396
清掃に関する活動	26	20.6		33	17.6	0.556
施設補修等の作業活動	5	4.0	>	0	0.0	0.010
農作業に関する活動	34	27.0	<	69	36.7	0.086
町内会・自治会活動	5	4.0		8	4.3	1.000
施設管理・案内・監視等の活動	4	3.2		1	0.5	0.162
子育て支援等に関する活動	1	0.8		6	3.2	0.249
高齢者福祉に関する活動	9	7.1		16	8.5	0.832
遊びなど子どもに関する活動	3	2.4		7	3.7	0.745
運動・音楽・踊り等の指導	2	1.6		9	4.8	0.210
その他の活動	1	0.8		2	1.1	1.000

Fisherの直接法

今後新たに行ってみたいこと(性・年齢階級別)

	男性					女性				
	75歳未満 (n=26)		75歳以上 (n=19)		p値	75歳未満 (n=28)		75歳以上 (n=23)		p値
	人	%	人	%		人	%	人	%	
収入の伴う仕事	4	15.4	0	0.0	0.126	3	10.7	0	0.0	0.242
シルバー人材センター等の仕事	3	11.5	0	0.0	0.252	1	3.6	0	0.0	1.000
家の家事 ^{*1}	3	11.5	3	15.8	0.686	8	28.6	4	17.4	0.509
家の中の家事以外のこと ^{*2}	6	23.1	2	10.5	0.435	4	14.3	5	21.7	0.714
家族の世話・育成 ^{*3}	7	26.9	1	5.3	0.113	3	10.7	1	4.3	0.617
家の家事以外の作業 ^{*4}	13	50.0	7	36.8	0.545	7	25.0	7	30.4	0.757
地区組織活動 ^{*5}	6	23.1	3	15.8	0.712	1	3.6	3	13.0	0.316
地域の美化・環境整備・清掃活動	6	23.1	1	5.3	0.211	3	10.7	3	13.0	1.000
子供に関するボランティア活動 ^{*6}	6	23.1	0	0.0	0.032	2	7.1	2	8.7	1.000
高齢者・障害者福祉に関する活動 ^{*7}	0	0.0	1	5.3	0.422	1	3.6	0	0.0	1.000
趣味の活動 ^{*8}	5	19.2	1	5.3	0.222	6	21.4	4	17.4	1.000
その他	0	0.0	0	0.0	—	0	0.0	0	0.0	—
特になし	8	30.8	9	47.4	0.353	10	35.7	11	47.8	0.408

*1 例示内容: 食事の支度, 掃除, 洗濯, ごみ捨て

*2 例示内容: 留守番・電話番, 仏壇の管理, 財産管理

*3 例示内容: 孫の世話・保育, 子ども世代への助言・育成

*4 例示内容: 庭の手入れ, 野菜作りなどの農作業, ペット・家畜の世話

*5 例示内容: 自治会, 老人会, 趣味の会・サークル, 地域の組織会などの活動

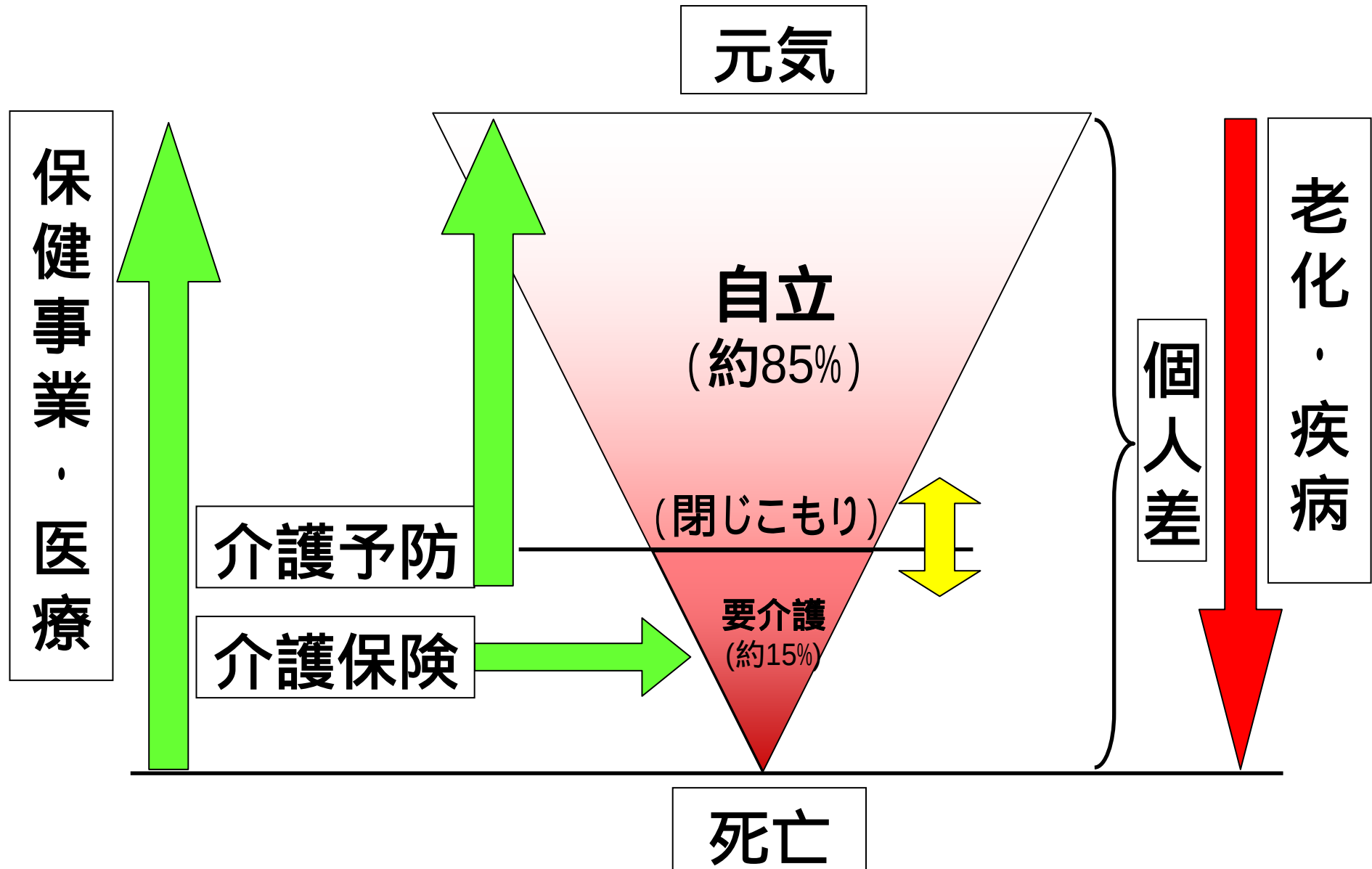
*6 例示内容: 子育て支援, 遊びの指導, 登下校の見守り

*7 例示内容: 施設慰問, 送迎, 話し相手

*8 例示内容: 運動, 歌, 楽器の演奏, 踊り, もの作りなど

*9 正確確率検定

7. まとめ：介護予防・介護保険の意義



「特定健診・保健指導」と「介護予防」

